

常陸大宮市の戦国時代

私が主に担当する「中世」という時代は、一般的な高校日本史の教科書では、11世紀半ばの院政期から16世紀半ばの戦国時代までとなっています。それ以前が古代、それ以降が近世という時代区分になります。この区分に従えば、常陸大宮市域に勢力をもっていた佐竹氏は、中世のみならず古代末から近世初頭にかけて活躍したということになります。佐竹氏というと、どうしても隣接する常陸太田市を連想しがちですが、佐竹氏を考える上で常陸大宮市も同様に重要な地域といえます。

とりわけ戦国時代については、佐竹氏が大きく成長する画期となった部垂^{へたれ}の乱の舞台となりました。従来佐竹氏における内乱としては、約 100 年続いた佐竹の乱が注目されがちでしたが、それに続く部垂の乱も佐竹氏の権力確立過程において重要といえます(拙稿「部垂の乱と佐竹氏の自立」『佐竹一族の中世』、2017 年)。現在の大宮小学校が部垂城跡になりますが、校舎周辺にある部垂義元^{よしもと}墓碑や土塁^{どるい}から往時をしのぶことができます【図 1】。

隣接する甲神社には、部垂義元奉納と伝わる「源氏系図」や「佐竹義昭奉加帳」などが残されており、戦国時代の佐竹氏を研究するうえでの貴重な史料となります。

【図1】部垂城縄張り図
(『図説 茨城県の城郭』より転載 作図：青木義一)



探しています！

古文書・古写真・古い石塔・昔話・珍しい動植物
などは、本市の歴史を調査する重要な手がかりです。
お心当たりがありましたら、ぜひご一報ください。



山縣 創明
 県立水戸第一高等学校教諭
 市史編さん専門調査員（古代・中世史部会）

また市内には、部垂城をはじめ長倉城や野口城、小場城など佐竹氏の有力な一族衆や国人衆の拠点となった城跡や、高部館や小舟城などの佐竹氏が下野東部に進出するうえで重要な「境目の城」が多数あった地域であるということも大いに注目すべき点だと思います【図2】。

今回の市史編さんでは、上記のような従来あまり注目されてこなかった史料や城跡にも光をあてていければと考えています。

【図2】常陸大宮市域における城跡分布図
(前川辰徳「佐竹氏と下野の武士」『佐竹一族の中世』より転載)



■問い合わせ■

文化スポーツ課
文化・スポーツグループ ☎ 52-1111 (内線 344)